



特集Ⅰ

学問への熱い志に応える。

熊本大学の社会人受け入れ制度

特集Ⅱ

困難が重なっても、できることはある

熊大生の力を被災地に！



池田勇人(左)と五高同窓会の太鼓(右)

池田勇人の太鼓

五高記念館は、内閣総理大臣 池田勇人ゆかりの太鼓を2基所蔵している。

1基は、第五高等学校と第七高等学校造士館の卒業生による五高七高野球定期戦応援のため五高同窓会が池田から寄贈を受け、後に五高記念館が引き継いだ。もう1基は、古い太鼓の胴に池田が揮毫した「必勝 為福岡五高会 池田勇人」の文字が彫り込まれており、福岡五高会所蔵のものが記念館に寄贈された。

太鼓は旧制高等学校で事あるごとに行われた街頭デモンストレーションや応援合戦で盛んに使われ、旧制高校を象徴するものの一つである。各人が腰に下げる小型のものや、棒に吊り下げ前後を二人で担ぐ中型の太鼓もあるが、台車に乗せ大人数で引き回す太鼓は、常に集団の中心にあり華であった。惣代や応援団長は大太鼓の上に立ち「檄」と呼ばれる応援文を読み上げ生徒達を鼓舞した。大正時代の五高七高戦では更に大きい太鼓を貨物列車に乗せて鹿児島市まで運んで行った。

2基の太鼓はどちらも五高時代のものではないが、旧制高校閉校後も盛んに行われていた寮歌祭や同窓会などで使用されたものである。

文 藤本秀子 (五高記念館)

はやと
池田勇人

1922(大正11)年第五高等学校卒業。1949(昭和24)年に衆議院議員に初当選し吉田茂内閣の大蔵大臣となった。1960(昭和35)年7月から1964(昭和39)年11月まで第58～60代の内閣総理大臣を務め「所得倍增計画」を打ち出した。東京オリンピックを成功させた後退陣、1965(昭和40)年8月逝去。

※五高記念館(国指定重要文化財)は、熊本地震による被害のため長期休館中です。

熊大通信

vol. 79
2021 WINTER

CONTENTS

- 03 特集Ⅰ 学問への熱い志に応える。
熊本大学の社会人受け入れ制度
- 11 研究室探訪 数学で、新しい時代を切り拓く
一様な技術の根幹をなす数学を深く理解し、
工学への応用を目指します
工学部 機械数理工学科 城本 啓介 教授
- 13 特集Ⅱ 困難が重なっても、できることはある
熊大生の力を被災地に！
- 17 卒業生ジャーナル
- 19 KUMADAI TOPICS
- 22 熊本大学基金よりお知らせ

熊本大学広報誌 熊大通信 vol.79

*皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

【発行】 国立大学法人熊本大学
〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2-39-1
Tel.096-342-3119 Fax.096-342-3110
sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp

【編集】 熊大通信編集委員会
大日方信春／委員長 大学院人文社会科学部（法学系）
安村 明／大学院人文社会科学部（文学系）
松永 拓己／大学院教育学研究科
松永詩乃美／大学院人文社会科学部（法学系）
一柳 錦平／大学院先端科学研究部（理学系）
尼崎 太樹／大学院先端科学研究部（工学系）
坂梨 京子／大学院生命科学研究部（保健学系）
首藤 剛／大学院生命科学研究部（薬学系）
井口 英樹／総務部総務課広報戦略室

【制作】 株式会社 談

表紙 / 【原画】 松永 拓己 / 大学院教育学研究科 准教授

本荘北キャンパス山崎記念館
祈りーコロナ禍の中において、すべての医療従事者へ捧ぐ。

熊大生、拓く。 写真洗浄で思い出をよみがえらせる

熊本県南部を中心に大きな被害がでた令和2年7月豪雨。新型コロナウイルス感染症の影響で県外からのボランティアが制限される中、多くの熊大生がボランティア活動を行った。学生が主体となって運営する「熊助組」では、被災した写真の洗浄を行っている民間のボランティア団体「あらいくま熊本」の活動に参加。被災した人々の心の支えにもなる思い出の写真をよみがえらせようとの思いを込めて作業を行っている。

※「あらいくま熊本」は写真洗浄ボランティアの団体。令和2年7月豪雨を機に、熊本市で立ち上げられました。同様の活動は中国地域（岡山県、山口県）で展開されています。

※「熊助組」については特集Ⅱでも紹介しています。

学問への熱い志に答える。 熊本大学の社会人受け入れ制度

社会に出ると見えてくる、「学び」の価値

「学生の頃、もっと勉強しておけばよかった」。多くの人が、社会人になってそう思うと言います。経験を重ねることで、新たな疑問を抱くことや、責任ある立場での選択を迫られることも増えていきます。

そんな時、力を与えてくれるのが「学問」。

再度学びたいという社会人に対し、

熊本大学は扉を開いています。

今回は、正規課程学生という立場で

志高く学ぶ方々を紹介します。

社会人も学びやすい環境を目指して

近年の急速な技術革新や社会情勢の急激な変化に伴い、職業上・生活上の必要から、あるいは教養を高めるために、社会人の方々から、大学等の高等教育機関での学習機会を得たいとの要望が高まっています。

熊本大学では、地域に開かれた大学として、こうした要望にこたえとともに、社会人の受け入れが本学の教育研究に刺激を与え、活性化につながるものと考え、積極的に社会人の受け入れを行っています。

正規課程学生として社会人入試制度での受け入れ

学部

医学部保健学科

社会人特別枠(1~2名)で特別選考

大学院

大学院
(一部を除く)

社会人入試制度で選抜

教育学研究科
(教職大学院)

一般入試のほか、熊本県・熊本市教育委員会などからの推薦による推薦入試



正規課程の学生以外として受け入れ

研究生
(学部・大学院)

特定の専門事項について、定められた期間、研究を行う

科目等履修生
(学部・大学院)

学部や大学院の授業科目のひとつまたは複数を受講試験を受ければ単位を取得することができる

詳しくは [熊本大学 社会人受け入れ](#)

[検索](#)

社会経験も活かして

チーム医療を支える人材を育成

夢の実現やキャリアアップを目指して学んでいる
保健学科看護学専攻の社会人学生について、
田代浩徳教授と前田ひとみ保健学科長に話を伺いました。

社会人学生の高い意欲は他の学生にも良い刺激に

医学部保健学科では、看護学専攻において社会人学生を受け入れています。社会人学生は高校から進学した学生とともに、学部生として4年間みっちり勉強と実習に励み、国家試験を経て看護師や助産師、保健師の免許を取得。そんな厳しい世界に、一度社会に出てから飛び込む社会人学生は、強い熱意を持つ人ばかりです。「社会人となつて看護師や保健師と関わり、また、妊娠と出産を通して助産師と関わる中で、自分もそういう仕事に就きたいという動機を持ってこられます。その経験も苦勞しながら勉強する熱意も、一緒に学ぶ他の学生たちの良い刺激となつて

います」と話すのは、田代浩徳教授です。現在、医師以外にも、様々な医療従事者に対する社会的な要請は増えています。「私の専門である産婦人科では、チーム医療として看護師、助産師への期待が高まっています。高まっていますし、医療を地域全体で支えることについては保健師の活躍も不可欠です」と田代教授。大学で高度な知識を身につけるだけでなく、様々な経験を持つ社会人学生がチーム医療を支える一員となる。そんな人材を育成していくことが大学の役割だと話してくれました。



1対1の論文指導にも熱が入る

総合大学で看護学を修める強みを活かして活躍を

看護師免許を取得するなら大学以外にも道はあります。しかし、「熊本大学医学部の保健学科で学ぶ以上は、やはり学問として看護学を修めてほしい。単に知識や技術を身につけるだけではなく、自分の力で、看護というものをどう開拓するのか。何がベースにあり、それをどうやったら発展させられるかを思考できる力を養ってほしい」と思っています」と話すのは、前田ひとみ保

健学科長です。「熊本大学は教養科目もしっかりと学べる総合大学。様々な学部があり、他分野の人とも接することができます。多くの知識を学んだうえで、看護とは何かを考える。社会人学生にもぜひ、総合大学で学んだ強みを活かして活躍して頂きたいと思えます」。



医学部保健学科長
前田ひとみ 教授
MAEDA Hitomi



医学部保健学科
田代浩徳 教授
TASHIRO Hironori

医学部保健学科看護学専攻の受験資格など	
<受験資格>	大学入学資格を有する社会人で社会人経験を1年以上有するもの(入学時に満23歳以上)
<選抜方法>	大学入学共通テストを免除し、調査書、志望理由書、英語、小論文、面接の成績で総合的に判定



昨年の学園祭「本九祭」では熊本県総合保健センターに勤務していた社会人学生が検診車誘致の窓口。勤務経験を活かして他の若い学生を支援した



看護学専攻4年
福島志保さん
FUKUSHIMA Shihou

医療機関の事務職として勤務し、診療報酬請求や厚生局との渉外に携わっていたが、妊娠、出産を機に退職。2017年に熊本大学医学部保健学科看護学専攻へ入学。

極的でなかった患者さんが、「あなたが一緒にやってくれるなら、やるよ」と言ってくれたり、高齢者施設で「あなたに会えてよかった」と言ってもらえた時は、本当に嬉しかったです。4年間学ぶためには、周りの支援が不可欠です。私は、年齢差はあっても同級生たちが大きな支えになり、家族の協力もあって乗り越えてきました。また、子どもの行事等で講義をやむを得ず休むことに対しても、先生方に理解をいただけたこと。それには感謝しきれないくらい感謝しています。



社会人
学生の声

同級生の存在や家族の協力
そして、先生方の育児への
理解に感謝

妊娠、出産で大変な経験をした際、親身に寄り添ってくれた助産師さんに出会って、私も人に貢献できる仕事をしたかったことが進学した理由です。

覚悟はしていましたが、勉強や実習の厳しさは想像以上です。覚えることは膨大ですが、家に帰ると育児や家事に頭を切り替ええないといけないので、大学にいる間、空き時間などもうまく活用し勉強しました。レポートや資料づくりでは、効率よく簡潔にまとめること、さらにパワーポイントなどに慣れていくことが役に立ち、病院事務の仕事で経験したことは無駄ではなかったと思います。実習では看護師さんたちが緊張感を持ち働く現場を目の当たりにし、改めて命を預かる仕事だと実感。そんな中で、リハビリに対し積



大学院
教育学研究科
藤中 隆久 教授
FUJINAKA Takahisa



グループになって発表前の練習を実施

大学院 教育学研究科 教職実践開発専攻(教職大学院)

教育現場の経験を積み重ねたからこそ、さらに「教育」を深める意味がある

現職の教員が再度学びを深めるべく通うのが、熊本大学の教職大学院。学部から進学した学生とともに、学んでいます。教育学研究科の藤中隆久教授に伺いました。

教員としての再研修の場



「現在は、熊本県と熊本市の各教育委員会から派遣されて来た先生方6名と、私立の学校の現職の教員、臨時採用経験者、そして学部から進学した学生たちがともに学んでいます。現職教員である社会人学生にとっては、教員としての再研修のような機能がある大学院と言えます」と藤中隆久教授。

現職教員の学生のうち、教育委員会から派遣されてくる教員は、その多くが教育現場で20年以上のキャリアがある人たちで、教育現場の管理職や、教職員のミドルリーダの養成が目的の一つです。一方社会人学生自身の目的は様々で、教育現場で実践を重ねているうちに、教育方法などに疑問を持つ

こともあります。なんとなくうまくはいつているが、理論的な根拠も知っておきたいという人もいれば、自分が取り組んできた教育の方向性を確認したり、修正したり。そんな学びの場が教職大学院です。



小学校英語のカリキュラム構成の発表

「教育観」と「実践」両方の再点検と進化を得る



「教員という仕事に限らず、一つの仕事を20年以上もやっていると、気が付かないうちに、その仕事に自分自身が適合するようにセットアップされてしまいます。それはいいことでもあるのですが、一度立ち止まって見直してみると、より広い視野で考えられるようになる。教育者であれば、自身の教育観や実践の再点検、そして進化を得られると思います」と藤中教授は言います。さらに、学部から進学した若い学生とともに学ぶことで、それまで考えもしなかったような、教員を目指す若い人の感覚を知ることができます。「若

い学生は、社会人学生の20年という経験からたくさんのことを学べる。お互い学び合える環境です」。教育指導法も年々変化し、時には「風潮」のようなものが現場に影響を与えることもあります。藤中教授は「それを気にせず自分が信じるやり方で指導する先生もおられます。しかし、なぜ新しい教育が生まれ、風潮が生まれるのか、その理論的背景を理解できれば、変えていく必然性を実感できる。そんな深い部分を学びに、大学院に来てほしいと思います」と話してくれました。



21世紀型能力育成の授業における紙ヒコーキ飛ばし大会

大学院教育学研究科<教職大学院>の受験資格など	
<受験資格>	<p>【一般】教育職員免許法による幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の教諭もしくは養護教諭、栄養教諭の普通免許状を有するもの(当該年度での取得見込み者を含む)など</p> <p>【推薦】現職教員のうち6年以上の教職経験があるもので所属機関の長からの推薦を得られたもの 熊本県・熊本市教育委員会から推薦されたもの など</p>
<選抜方法>	<p>【一般】授業実践や学級経営などに関する論述試験+基礎知識や入学後の学修に関する口述試験</p> <p>【推薦】基礎知識や入学後の学修に関する口述試験</p>

研究理論と実践 両方を学べるのが 大学院の良さ

学部生として教育を学んでいた頃と違い、22年の現場経験を踏まえて講義を受けているため、生徒への自分の実際の対応と照らし合わせ、理論として正しかったのかどうか確認することができます。教員の研修制度はほかにもありますが、大学の研究理論と実務の実践の両方を学べるのが大学院のいいところ。学習指導要領も、ただ読むのではなく「読み込む」という学びをすると、授業を1時間の中ではなく、横断的かつ系統的にマネジメントする力につながります。大学院生として、現場で実践する日を楽しみに学んでいます。

学部から大学院に進学した若い学生とともに学んでいるので、私たちの現場経験が講義の材料になることも。その資料を作ったり、若い学生に話をすることが、これまでの経験を自分の中で整理することにもつながっています。さらに彼らが予想外の反応をすると、「今の若い人たちはこんな考え方をしているんだ。こんな思いで教員を目指しているんだ」と知り、とてもいい刺激に。これは、大学院ならではの貴重な機会だと思います。

現在、英語科の免許も取得しようと、教育学部の科目等履修生としても学んでいます。これも、大学院に進学したからできたこと。履修してよかったと思っています。



教職実践開発専攻
教科教育実践高度化コース1年
教育学部科目等履修生
菊陽中部小学校 教諭
合志 るみ子 さん
GOSHI Rumiko



社会人が持つどんな課題にも 立ち向かう力を身につける

熊本大学大学院には、社会人入試制度があり、それぞれの専門的な知識を高める目的で入学を希望する学生を受け入れています。今回は、社会文化科学教育部の法政・紛争解決学専攻を担当する中内哲教授にお話を伺いました。

円滑な人間関係を理論で深める交渉紛争解決学

法学系の専攻といっても、そこで学ぶ社会人は法律に携わる人だけとは限りません。「交渉紛争解決実践コースには、中学校の先生や看護師の方などがおられます。教員の方は教員同士や保護者と、看護師の方は医師や患者さん、その家族との関係をいかに円滑にするか、経験だけではなく理論も必要だと考えてのことです」と中内哲教授。交渉紛争解決学というと難しく聞こえますが、その理論は、人と人の円滑なコミュニケーションを助けるもの。交渉紛争解決学を教育の軸にしている大学院は、全国でも珍しい存在です。

また、法・公共政策実践コースには、

社会保険労務士や土地家屋調査士など法律専門職のほか、公務員や、純粹に法律を学んでみたいという社会人学生も在籍。「社会には様々な仕事がありますが、法律や政治、経済の深い知識があるほうがより良い、という場合はたくさんあると思います」と中内教授は説明します。

仕事をしながら入試に臨む社会人に対しては、弁護士や司法書士など八士業と呼ばれる職業の方や、職務として大学院で研修することを想定する公務員の方は面接のみにするなど、挑戦しやすい仕組みを設けています。

社会人でも学びやすい環境を整備

社会人入試制度の出願資格では、所属する会社や組織に認められ、入学後もその身分を有していることが条件になっている大学院もあります。「会社での身分や仕事を持続したまま、必要な講義を受け、研究を行えるよう、学びやすい環境を整備することも重要です。そのため、相談窓口を設けたり、授業時間などの工夫を行って、支援しています」。多くの大学院が取り入れているのは「昼夜開講制」や「土曜開講」です。平日の昼間だけでなく、仕事が終わった後の夜間の時間帯、仕事が休みの土

曜などに授業や研究指導を行うこともあります。また、3〜5日間集中して受講することで単位取得できる「集中講義」や、標準修業年限を超えた一定期間（前期課程最大4年、後期課程最大6年）で修了することを申し出れば標準修業年限と同じ授業料で履修、修了できる「長期履修制度」などの配慮もあります。「eラーニングや遠隔授業も活用しています。大学に足を運ばなくてもどこからでも受講できると好評です」。



大学院
社会文化科学教育部
法政・紛争解決学専攻長
中内 哲 教授
NAKAUCHI Satoru



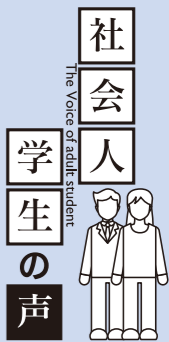
大学院の社会人入試制度の受験資格

教育部	資格
社会文化科学教育部 (法政・紛争解決学専攻、現代社会人間学専攻、文化学専攻、教授システム学専攻)	有職者に限らず、2年以上の社会経験を有する者 など
医学教育部 (医科学専攻)	官公庁、教育・研究機関、企業等において志望する講座に関連する業務に原則2年以上従事しており、入学後も同等の身分を有し、所属長の承諾を受けた者 など
薬学教育部 (創薬・生命薬科学専攻)	病院、薬局、教育・研究機関、企業等に正規の職員として勤務しており、入学後もその身分を有し、所属長から推薦を受けた者 など
自然科学教育部 (理学専攻、土木建築学専攻、機械数理工学専攻、情報電気工学専攻、材料・応用化学専攻)	官公庁、教育・研究機関、企業等において、志望する専攻に関連する業務に2年以上従事した者 など

※各大学院の詳細は、募集要項をご確認ください。



オンライン会議システムを活用したゼミ



複雑化する 労働環境に対応するため 論理的思考を磨く

現在、労働を取り巻く各種の法改正や多様化する雇用形態に対し、社会保険労務士の業務も複雑化し、より高度な専門性が要求されています。さらに現在は、個別労働紛争が増加しています。私が持つ特定社会保険労務士という資格はそういった紛争に関与でき、当事者双方にとって納得性の高い解決を目指なければなりません。そんな中で、紛争解決学を学び、論理的思考も磨きたいと進学しました。

社会人が学びやすいよう長期履修制度もありますが、私の場合は「2年でしっかりと単位を取るよう」と指導教授から言われました。結果として、短期集中することで、効率よく仕事と勉強を両立する自分のペースをつかむことができました。そして勉強を継続できているのは、私と同じ特定社会保険

労務士として事務所を支えてくれる娘の協力で、私たち社会人学生を支援してくれる社会人大学院教育支援センター、そして、何より先生のご指導やご配慮のおかげです。大学院への進学は、仕事との両立は簡単ではありませんが、切磋琢磨できる環境が整っています。進学すれば、ともに学ぶ仲間と輝く未来が待っています。まずは、自分の力で扉を押し開いてみるといいのではないのでしょうか。



法政・紛争解決学専攻
法・公共政策実践コース
博士前期課程1年
ひまわり労務管理サポート
事務所 所長
特定社会保険労務士
中島 啓子 さん
NAKASHIMA Keiko

工学部 機械理工学科 数理工学教育プログラム
大学院先端科学研究部 応用数理解析分野

城本 啓介 教授
SHIROMOTO Keisuke



城本 啓介 教授

今、社会で求められる
数学と工学の「翻訳者」を
育成しています

私たちの研究の一つは、数理構造を用いた符号理論。文字や画像が0と1に変換されて伝達される時に、ノイズなどによって起こる誤変換を訂正するための数学的理論です。今後の情報化社会で必要とされる高速かつ大容量の通信において、誤変換を修正し、「コストを下げるための新しい仕組みを研究しています。

また、この数理工学の分野は、ビッグデータに含まれる個人情報や暗号化したうえでA-Iの深層学習やデータの解析に活用するための、秘匿計算の技術にも関わります。現在、日本では産業界における課題と数学を結びつけるための工学と数学の「翻訳者」が求められており、その人材を育成しているのが数理工学教育プログラムです。本を読むにしても、一行一行を読み解き、「正しいのか」を自分で検証して理解することで養われる数学力は、どんな道に進んでも必要になるはずです。

符号理論を用いた暗号を研究
夢は、ソフトウェアのエンジニア!

— なぜこの学科に? —



博士前期課程1年
まこだ たくや
迫田 拓弥さん

鹿児島高専から学部3年生の時に熊本大学に編入。工学も数学も好きで、この学科を選びました。私たちの周りにある、日々使っている技術を数理的な面から考えられることがすごく楽しいと思います。工学では技術を実用化することが大事ですが、その技術を数学的、理論的に理解できると別の応用にもつながり、自分の成長につながります。難しく大変ですが、それが数理工学の面白さだと思います。

情報共有も活発。
お互いを高めあえる研究室です!

— どんな研究を? —



博士前期課程2年
いまむら こうじ
今村 浩二さん

私は、マトロイド理論と符号理論をテーマに研究しています。インターネット上で毎週のように行われている、「プログラミングコンテスト」にも参加。チームで参加する時は積極的にコミュニケーションを取らないと問題が解けません。一人ひとり得意分野があり、一人では思いつかなかったことが、みんなで作ると分かる。そんなところに面白さを感じています。今後は博士後期課程に進学予定。学会への参加や、論文をたくさん書くことが目標です。

こんなメンバーもいます!

数学の「自由な世界」が魅力



日本学術振興会
特別研究員
さたは しょうせい
佐竹 翔平さん

日本学術振興会の特別研究員として城本研究室に所属しています。研究分野は組合せ論とグラフ理論。画像処理等の応用研究も行っており、工学の分野で得られる課題が新しく面白い問題として数学に返ってきます。それに取り組むことが数理工学の醍醐味だと感じています。新しいものを見つけ、自分の中では何の制約も受けずに何ができるのか考える、そんな、数学の自由な世界が好きで研究を続けています。

数学で、新しい時代を切り拓く
— 様々な技術の根幹をなす数学を深く理解し、
工学への応用を目指します

メンバーが見た!

城本研究室 3つの特徴

- 1 研究テーマ**
建築に三角関数、ロボットに行列が使われているように、数学は工学技術の基礎となっています。数学をより深く学び、情報分野への新たな応用につなげる研究を行っています。
- 2 先生**
厳しくて、優しい先生。何でも相談できます!
- 3 学生主導の自主ゼミ**
研究室メンバーは趣味も数学。みんなと共有したいことを、学生が先生になって行う自主ゼミで発表しあっています。

Lab's Data

- 卒論・修論テーマ
 - ・整数剰余環上の符号を用いた秘密分散共有法
 - ・秘匿計算の構成及び処理速度に関する研究
 - ・機械学習は数学に有効か? ~連立方程式の考察~
 - ・線形符号を用いた耐量子計算機暗号について
 - ・単一誤り訂正符号を利用した数当てゲームの制作
 - ・ブロックチェーンにおける暗号システムについて
 - ・マトロイドの公理の同値性について
 - ・シュタイナー木問題に対する近似アルゴリズム
 - ・量子ジャンプ誤り訂正符号の存在について
- 就職先
 - 研究員
 - 高校教員(鹿児島県、神奈川県、佐賀県)
 - 東レ株式会社、SCSK株式会社
 - ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社
 - 三菱UFJインフォメーションテクノロジー株式会社
 - 日本アルゴリズム株式会社
- メンバー
 - ・教授1人
 - ・特別研究員1人
 - ・博士前期課程2年生2人
 - ・博士前期課程1年生2人
 - ・学部4年生2人

密着!

城本研究室



2019年12月にシドニーで開催された国際会議に参加

困難が重なっても、できることはある 熊大生の力を被災地に！

熊本大学としての対応について

熊本大学では、新型コロナウイルス感染症拡大を防止するため、本学の教員が代表者等となっているグループの学生が被災地支援のボランティア活動を行う場合、感染症対策に関する講習の受講、活動終了後2週間の健康観察報告の記録を義務づけると共に、必要に応じ活動前にPCR検査の受検を義務づける等の対策を行っています。

令和2年7月。新型コロナウイルス感染症への警戒の中、豪雨が発生。熊本県では死者65名を数える大災害となりました。本学では直ちに、熊本創生推進機構、学生ボランティア団体である熊助組が被災地支援ボランティアの窓口となりました。また、教育学部の学生を中心に、被災地の子どもたちへのオンライン授業を行っています。

熊本創生推進機構

若い機動力を大いに発揮

熊本創生推進機構は、「地域社会との連携強化による地域の課題解決」を目指し、熊大生たちが地域活動を行う際のマネジメントなどを行っています。

令和2年7月豪雨被災地支援では、熊大生たちがボランティア活動を展開しました。

今回、感染症予防という課題を抱えた状態での活動には、苦勞も多くありました。事前のPCR検査や体調管理の徹底はもちろんですが、現地で被災者の方や他大学、社会人ボランティアの方々との交流ができず、学生がやりがいや喜びを感じる機会は半減。しかしそれでも参加して、一生懸命活動する学生たちの精神力や機動力に感心しています。

私は教養科目のボランティア論やボランティア実践を担当。実践では、決められたボランティア活動時間を満たせば単位を得られます。ボランティアで単位や報酬を得ることは議論もありますが、これからの被災地支援の在り方として、そういった考え方はあっていると考えます。今回の水害では、

ボランティアに日当を出すという、初の試みをした団体もありました。また兵庫県立大学の室崎益輝教授が立ち上げて下さったクラウドファンディングでは、7月豪雨の被災地で活動する高校生と大学生の活動を対象に、金銭的支援が行われました。人の移動が制限される中で支援の形が多様化し、時代のニーズに合うものが出てきたと感じています。

当機構を通じた今回のボランティア活動には、1、2年生が多く参加。これからは、専門性を深めていきます。熊大生には、ボランティア活動を単なる支援活動ではなく、「大学で学ぶ専門性を地域にどう活かすのか」を考える、よき学びの場としてほしいと思います。



熊本創生推進機構
地域連携部門
安部 美和 准教授
ABE Miwa

参加したボランティア学生の声 人手はまだまだ必要！ 支援を今も続けています

熊本地震の支援の「お返し」を

留学した年に熊本地震を経験。不安な中で頂いたたくさんの方の支援に対し、ほんとお返しできなかつたと感じたことが、今回、令和2年7月豪雨の被災地支援に参加した理由です。初日は土砂のかき出しで、熱中症になりました。もっと役立てるよう体を鍛えつつ、その後は避難所での支援にも継続して参加しています。

私の国も、日本ほどではありませんが洪水が発生し、隣国イランで起こる地震の影響も受けます。過激派の問題や、同じ国でも言語が違うことで生まれる問題もあります。しかし、日本のように、何

か起こっても避難所を立ち上げ、そこに全国各地からボランティアが集結する、というような仕組みはありません。将来は、私たち自身が自立してイラク人同士が支え合えるように、熊本での経験を活かしたいと思っています。



留学生(イラク出身)
大学院薬学教育部博士後期課程2年
ドゥアー フシャーム
マジード アルサディさん
Doaa Husham Majeed Alsaadi

被災地支援は「継続」が不可欠

これまで、熊本地震の仮設住宅でも活動を継続。毎回子どもたちと遊び、慣れたきた子どもたちが私を見て、名前を呼びながら走り寄ってきてくれるようになった時の喜びは、今も忘れられません。

被災地支援では、通常は各地から来るボランティアに精通している方がリーダーシップを取り私たちを引っ張ってくださいます。しかし今回の令和2年7月豪雨では熊本県外からのボランティア受け入れができず、自分たちだけで考えて動く、ということが大変でした。

被災地支援を通して学んだのは、現場に行かないと分からないことがたくさん

あること、そして、支援を継続する大切さです。今、水質浄化に関わる研究を行っており、現場で現地の人と交流し学びを得る経験は、今後の研究や将来の仕事にも必ず活きると思います。



工学部機械システム工学科4年
横尾 拓海さん
YOKOO Takumi



活動前のミーティング



浸水した倉庫からの泥の掃き出し



写真洗浄ボランティア



旧多良木高校の避難所での物資分け



人吉市での活動



人吉市の店舗内泥かき

ボランティア側も
目標をしっかりと見据えて

私がボランティアに参加しようと思ったのは、新型コロナウイルス感染予防のために学校が閉鎖になり、やっと通学ができるようになったと思った矢先の豪雨被害で、焦っているはずの中学3年生の助けになりたいと思ったからです。自分自身、中学生の頃、大学生によるボランティアの学習支援を受けたことも、なにかしようと思うきっかけになりました。

現在、私を含めて2人が代表として活動。中学生たちもずっと私たちに質問しやすいようにするにはどうすればいいか、もっとリラックスして楽しく参加してもらおうにはどうすればいいか、などをよく話し合っています。大切なのは、私たち自身が何のためにオンライン授業をするのか、目標をしっかりと

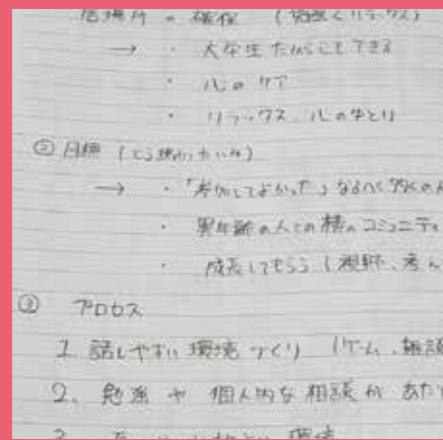
定めておくこと。まずは、彼らがリラックスして勉強できる「居場所」づくり、そして、オンライン学習支援を通して視野を広げ成長してもらうことが大事だと考えています。

学習時は、緊張をほぐし毎週参加したいと思ってもらえるような工夫もしています。例えば長時間で行った際は休憩をいれ、メンバーである理学部生が研究室内部を見せるツアーをやってくれたこともあります。中学生の中には、「大学進学を考えてみようと思った」と話してくれた子もいて、嬉しかったです。

将来は教員になることが目標なので、私もいい勉強をさせてもらっています。ボランティアの中には教職大学院に通う現役の先生やNPO法人の方も。社会人の先輩と中学生という、幅広い年齢との交流も学びになります。興味のある人は、このボランティア活動にぜひ参加してほしいと思います。



教育学部
養護教諭養成課程1年
代表
沖永 千奈さん
OKINAGA China



受講アンケートをもとに、中心になっている学生で話し合いを行い、今後のやり方などを検討しました

令和2年7月豪雨の被災地では、子どもたちも厳しい状況に置かれました。教育学部生が中心となり、球磨村立球磨中学校の3年生に対して行われているのが、オンライン学習支援です。

オンライン学習支援ボランティア がんばれ中3! 高校受験まで、応援します



大学院自然科学教育部土木建築学専攻
博士前期課程1年
熊助組 副代表
宮崎 一貴さん
MIYAZAKI Kazuki

発災後1週間は、どのような支援が可能か情報収集に努め、8月以降は毎週現地にボランティアを派遣しました。感染症予防のために部活動が禁止されていたこともありボランティアを希望する学生が増え、メンバーは3倍以上に。登録手続きや健康状態のチェックなどを短い間で行わなければならなかったこと、また幹部会議などのやり取りもオンラインで話がつらく大変でしたが、メンバーの増加はありがたかったです。現地には行けない人もいますが、活動が支障なく進むよう、必要な道具の準備などの後方支援もがんばっています。



工学部
土木建築学科4年
熊助組 副代表
奥田 耕大さん
OKUDA Kouta

私は1年生の時の熊本地震をきっかけに熊助組に入りました。感染症予防のため活動が制限される中、若い自分たちができることは何か、常に考えながら動いています。

7月豪雨については、「あらいくま熊本」が行っている、泥水に浸かった写真の洗浄ボランティアにも参加しています。なんとか状態を戻して写真を返すと、被災者の方がとても喜んで下さるそうで、1枚でも多くの写真を救おうと、みんな一生懸命です。今後も継続して手伝つ、息の長い活動になると思います。



工学部
土木建築学科4年
熊助組 渉外担当
松浦 拓斗さん
MATSUURA Takuto

人吉市と球磨村を中心に、土砂の撤去や浸水した家屋からの家財の運び出しなどを支援。家ごとに被害状況が異なり、しっかり対応するにはもっと場数を踏まなければと感じています。でも、作業が終わった後には、大きな達成感を得ることができません。

被災地では、土砂に下水が混じってその臭いに困っているなど、行くことで知ることたくさんあります。水の力の強さや土砂の流れかた、建物への影響など、土木建築科で学ぶ自分にとって、とてもいい勉強にもなっていると感じています。

熊本地震でも、継続してボランティア活動を行ってきた熊助組。令和2年7月豪雨発災後は、これまでにない多くの学生が登録し、活動を展開しています。メンバー増加でパワーアップ

工学部公認サークル熊助組
「どきどき」とは何か「常に考えて動く!」

写真洗浄ボランティアも

自分自身のいい学びにも

文 事業拡大を進める電力会社で いつか、地域づくりに関わりたい



太田 美紅

OTA Miku

九州電力株式会社(九州電力送配電株式会社出向中)
宮崎県都城配電事業所

文学部総合人間学人間科学コース
令和2年3月卒

平成8年生まれ。福岡県福岡市出身。香住丘高等学校英語科卒業。チューター制度を通じて韓国に留学生と親しくなったことをきっかけに韓国に興味を持ち、4年次に1年間の交換留学に。言葉の音と意味のつながりに関心があり卒業論文では「音象徴」について研究。趣味はドライブ、カラオケ。

熊大のココがイイ！

個性的で、お互いにその個性を受け入れられる学生・先生方に出会えること！やりたいことをやるチャンスがどこかにあること！

恩師の言葉に背中を押され、心理学を学ぶことに

高校時代は英語の勉強に励んでいて、大学では英語を活かして他の勉強をしたいと思っていました。当時、メンタルトレーニングの本を読んだことをきっかけに心理学に興味を持ちました。心理学は就職に活かせないのでは悩んでいましたが、恩師の「興味があることを勉強するのが大学」という言葉に背中を押され、心理学を勉強することを決意しました。

韓国留学が人生のターニングポイント

大学ではアカペラサークル・ヒゴベラに所属。バンドメンバーとステージ上や屋外で思い切り歌ってハモる瞬間が快感でした。また、大学のプログラムやイベントを積極的に利用して様々な経験ができました。留学生のチューターやサマープログラム、特に韓国へ交換留学生としての派遣は、人生のターニングポイントと言っても過言ではありません。

現在は出向先で、電力無断使用調査などを担当

九州のまちづくりに関わりたいと思い、電気小売り自由化により事業拡大を進めている九州電力に就職。現在は九州電力送配電(株)に出向し、電気の無断使用の調査や契約の適正化などを担当しています。将来は九州各地の特性を生かした地域活性化に携われるよう、日々勉強中です。

医 熊本の集中治療の発展に 寄与できるよう頑張っています



中村 悠太

NAKAMURA Yuta

済生会熊本病院救命救急センター

医学部医学科
平成24年3月卒

昭和58年生まれ。新潟県新潟市出身。父が転勤族だったため、新潟で生まれた後はアメリカなどを挟みつつ、山梨県立駿台甲府高等学校卒業までは山梨県中央市で過ごす。大学で初めて熊本へ。

熊大のココがイイ！

熊本に残る先輩後輩が多いため、どの病院についても知り合いがいて、診療を行う上で心強いです。

医師は、高校時代からの夢

高校生の頃から医師になりたいと思っており、医学部に進学しました。

大学は、友人たちのおかげで卒業

大学生活では学業をおろそかにしていまい、ギリギリで卒業できたので、働き始めてから学生時代の不勉強を後悔する日々です。当時は、時間があれば、ドライブや友人との飲み会をしていました。進級・卒業できたのも、その友人たちのおかげです。

初期研修を経て、救急・集中治療の道へ

大学卒業後から済生会熊本病院で初期研修を行い、救急・集中治療をやっていたいと思って同院の救命救急センターに残りました。約1年後に他県の高度救命救急センターに2年半ほど国内留学をさせてもらい、2年前に済生会熊本病院に戻りました。今は、集中治療が必要となるような重症患者さんの診療をメインに行っています。熊本の集中治療の発展に少しでも関われるよう、日々精進しています。

法 国家予算の編成に携わる業務 重圧の中に、やりがいを感じる毎日



米本 雄一

YONEMOTO Yuichi

財務省 主計局
(東京都)

法学部法学科
平成27年3月卒

平成4年生まれ。福岡県大宰府市出身。福岡県立春日高等学校卒業。熊本大学卒業後、財務省福岡財務支局へ入局。4年の勤務を経て財務省主計局へ出向中。昨年、第一子が生まれ、現在は妻の指導のもと絶賛子育て修行中。

熊大のココがイイ！

自然が溢れるキャンパスと、個性豊かで面倒見の良い教授陣が魅力だと感じます。

漠然と、法律を扱う仕事に憧れた高校時代

高校生の頃は漠然と法律を扱う検事や弁護士になることに憧れていました。そのため、将来は法学部に進学したいと考えておりましたが、地元大学の受験に失敗し絶望していた矢先、思い出作りと観光を目的として訪れ、受験した熊本大学に拾っていただき今に至ります。

ゼミで、国際関係論や政治学の面白さを知った

大学で法学系の講義を受講するたびに、自身が法律に向いていないことを自覚する苦しい日々でした。そのような中、ゼミに入ってから学んだ国際関係論や政治学に面白さを感じ、法学部の分野の広さと奥深さに助けられました。プライベートでは、多様な人間性を持つ多くの友人たちに恵まれ、良くも悪くも様々な趣味に熱中した大学生活でした。

国家予算の編成をシステムでサポート

財務省の地方支分部局である福岡財務支局へ入局後、現在は財務本省に出向して2年目となります。現在所属する主計局では、国家予算の編成に携わっており、予算編成をシステムでサポートする部署に勤務しています。スケールの大きな業務に携わり、重圧で潰れそうになりながらも、日々、大きなやりがいを感じています。

薬 「多くの人を助ける薬を作る」 子どもの頃の夢、研究者として奮闘



南部 晶子(旧姓:新堀)

NAMBU Akiko

シンガポール国立大学がん科学研究所

大学院薬学教育部博士後期課程
平成21年3月修了

昭和55年生まれ。青森県出身。青森県立三本木高等学校卒業、熊本大学大学院薬学教育部修了。現在は家族でシンガポールに居住し、育児と研究に奮闘中。

熊大のココがイイ！

先生、先輩後輩の仲がいい！インターナショナルな取り組みが活発。

病気で弱っていく人の姿に衝撃

小学校の頃、病気で弱っていく人々の姿をまとめた写真集に強い衝撃を受けました。「多くの人を助けられるような薬を作る」が、小学生の頃からの口癖。薬がないために苦しんでいる人の手助けになりたいと考え、高校時に薬学部を目指しました。将来は絶対に研究者になって人に役に立つ薬を開発する、そんな未来を描いていました。

大学5年間があったから、今の自分がある

大学院から熊本大学に入り、これまでの生活が一変し、失敗と挫折の連続。早朝から始まる朝ゼミは勉強になる一方、起きるのが大変でした。しかし、刺激を受け続けた大学院生活であり、あの5年間があったからこそ今があると思わせられる学生生活でした。教授や先生、仲間にもとても恵まれ、感謝してもしきれない大切な期間であったと思います。

心にもいつも恩師の言葉「運を運びなければ足を運べ」

博士後期課程修了後、熊本大学医学部のポスドクを経て、現在はシンガポール大学で働いています。「薬になる種」を探すべく、毎日モチベーションを高く保つように心がけています。大学院時代の恩師が教えてくれた「運を運びなければ足を運べ」を心に、一日一日を大切に過ごしています。

工 電気エンジニアとして 大規模プロジェクトに従事



奥山 貴史

OKUYAMA Takafumi

AGC株式会社 千葉工場
施設部 電計課

工学部情報電気電子工学科
平成26年3月卒
大学院自然科学研究科博士前期課程情報電気電子工学専攻
平成28年3月修了

平成3年生まれ。佐賀県武雄市出身。佐賀県立武雄高等学校卒業。趣味は将棋とゴルフ。学生時代の目標は自分の研究結果が教科書に載ること。一生勉強するのならば好きな分野、ということで強電系の道を選択。

熊大のココがイイ！

人が良い。未だ交流がある先生や友人と出会うところ。

救命にも欠かせない電気を学ぶことに誇り

高校時代に電気分野に興味を持ち、漠然と電気のエンジニアになりたいと思っていました。電気エンジニアとして生きたいと決めた理由は、知り合いになった医学部生から言われた、電気がなければ医師も治療はできない、という一言です。当たり前存在している電気は人命救助にもなくてはならないと実感し、電気を専門に学んでいることを誇りに思いました。

世界初、ストリーマ放電のトムソン散乱計測を達成

大学では今でも交流がある友人と出会う、笑いの絶えない充実した日々を過ごしました。最も印象に残っていることは、研究で世界初のストリーマ放電のトムソン散乱計測を達成した瞬間です。自分で実験回路構築、設備の選定など、新しいことにチャレンジし続けられた学生生活でした。

培ったチャレンジ精神を仕事にも活かして

入社後は工場電気設備のメンテナンス担当から始まり、現在はプラント建設工事など総額10億円を超えるプロジェクト業務に携わっています。自分がメンテナンスしてみても不自由さを感じる点は改善し、ユーザーからありがたいと言われるような仕事を目指しています。学生時代に得たチャレンジ精神で、若手なりにもたくさんの仕事を任せてもらっています。



本学の卒業生たちの今に迫る「卒業生ジャーナル」。

熊本県内はもとより、国内外で活躍している

先輩たちの様子を、これまでの歩みや苦勞、

そして喜び、楽しみなどを通じてご紹介します。

教 障がいのある人や子どもと関わり 大好きな音楽も活かせる教師の道へ



緒方 ゆかり

OGATA Yukari

菊陽町立武蔵ヶ丘小学校 教諭
(熊本県)

教育学部養護学校教員養成課程
平成20年3月卒
大学院教育学研究科修士課程特別支援教育専攻
平成22年3月修了

熊大のココがイイ！

学生に活動をさせてくれる場である学生会館です！食堂も売店も良さ思い出の場所です。

高校時代に、教師になる夢を抱く

これまでの人生で出会った障がいのある方たちのことを理解したい、子どもと関わる仕事がしたいと考えていました。音楽に魅力も感じていて、学校の先生ならそれを活かせること、教師になる夢を持つようになりました。

大学時代、特別支援教育の奥深さを知った

学部生の頃は趣味のチェロに情熱を注ぎ、研究所所属後は、仲間と学ぶ楽しさ、特別支援教育の奥深さを知りました。週に一度の、学習に支援を必要とする子どもたちに対する学習支援教室という活動や、自閉症や肢体不自由がある人たちの月例会や療育キャンプを通した学びがあったからこそ今の自分があると思っています。たくさんの論文を読み、悩み試行錯誤しながら取り組んだ修士論文も、「あんなに大変なことをやったのだから、人生何でもできる！」と、何かに挑戦する時の糧になっています。

現在育休中。今度は子育ての経験も仕事に活かしたい

特別支援学校で1年間講師を経験した後、新規採用として小学校に赴任。初任の3年間はうまくいかないことも多く、大学で学んだことをよく振り返りました。現在は育休中で2人の男の子を育てています。復帰後は、子育ての経験と、研究室で学んだことを活かして頑張りたいと思っています。

INFO ニコニコ美術館「永青文庫 冬季展を巡ろう」のご案内

東京都文京区の永青文庫にて11月21日から1月31日まで「財団設立70周年記念『新・明智光秀論—細川と明智信長を支えた武将たち—』」が開催されています。

開催に先駆け、11月20日に、オンラインで美術館を巡ることができる生放送番組「ニコニコ美術館」にて、展覧会の様子が生放送でインターネット配信され、永青文庫研究センター長の稲葉継陽教授が出演しました。

以下のURLからタイムシフト視聴が可能ですので、ぜひご覧ください。

【URL】
https://live2.nicovideo.jp/watch/lv328790398



ニコニコ美術館ウェブサイト
https://ch.nicovideo.jp/niconicomuseumより引用

INFO オンライン貴重資料展「甦った絵図と古文書」を公開しています

11月4日、附属図書館は、オンライン貴重資料展「甦った絵図と古文書」を公開しました。

オンライン貴重資料展は、11月に開催を予定していた第36回熊本大学附属図書館貴重資料展が中止になったことから、別の形で資料展を楽しんでいただけるように企画したものです。

本学所蔵の「松井家文書」は、熊本藩第一家老の松井家に伝わる資料で、劣化の激しいものも多く含まれますが、公開資料は当代一流の職人たちの手で修理され、現代に甦りました。本展では、天草・島原一揆における有馬城(原城)の絵図、新発見となる駿府城普請の際の拵書等の古文書を公開しています。パソコンはもちろんスマホ画面にも対応し、修理前と修理後の画像を自分で操作しながら比較できるように工夫しています。また、稲葉継陽永青文庫研究センター長による資料の解説は、時代背景も含めた興味深いものとなっています。

以下のURLから閲覧可能ですので、ぜひご覧ください。

【URL】
https://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/about/events/onlinekichoshiryō



REPORT 熊本大学のCMを制作しました

県内の高校生、保護者及び県民の皆様に熊本大学への関心を持ってもらい、進学を志すきっかけづくりを目的として、熊本大学のCM動画を制作しました。

10月からくまもと県民テレビの各番組で放映されたほか、熊本県内および福岡市博多区の映画館において、劇場版「鬼滅の刃」の上映前に放映されました。

以下の本学公式YouTubeチャンネルでも視聴可能ですので、ぜひご覧ください。

【URL】
https://youtu.be/N9BPTwiuzml



法学部法学科2年の森沙菜子さんが出演

REPORT くまもと水循環・減災研究教育センターが阿蘇青少年交流の家と連携協定を締結しました

11月6日に、くまもと水循環・減災研究教育センターは、国立阿蘇青少年交流の家と連携協力に関する協定を締結しました。

国立阿蘇青少年交流の家は昭和39年に設立された九州を代表する宿泊研修施設で、令和元年度には年間11万人を超える利用者があり、多様な教育事業を展開しています。現在は国土強靱化計画を踏まえ、広域防災補完拠点としての機能強化が求められています。

本協定は、相互が保有する資源・機能を活かして環境教育・防災教育・学術研究等を推進し、持続可能な減災型社会の実現と地域社会の発展に寄与することを目的としています。平成28年の熊本地震や令和2年7月豪雨の経験を活かした独自性のある先駆的な防災・減災教育モデルプログラムを共同で開発し、全国に発信することを目指しています。



協定締結式の様子

REPORT 「新興感染症対策寄附講座」を設置しました

熊本市からの寄附により、新型コロナウイルス感染症など新興感染症に対応する専門医育成のための「新興感染症対策寄附講座」が、11月1日に熊本大学病院高度医療開発センターに設置され、11月8日に、大西一史 熊本市長及び大学関係者の出席のもと記念式典を挙行了しました。

同講座は、令和7年10月31日までの5年間、日本感染症学会が指定するカリキュラムに基づき、感染症専門医6名を育成するほか、医療従事者や行政担当者向けのセミナーを開催するなど、多角的な活動を行う予定です。

式典では、まず原田信志 学長から、熊本市からの寄附に対する謝辞があり、大西市長から「寄附講座における研究等により、市民の安心、安全な社会生活及び医療提供体制の維持につながる」と同講座への期待が述べられました。引き続き、大西市長から、谷原秀信 病院長への目録授与があり、谷原病院長から「熊本市における感染症対策の充実及び地域の福祉と健康に貢献できるよう全力を尽くしていきたい」との決意表明がありました。



記念式典の様子(右から大西市長、原田学長、谷原病院長)

REPORT ましきラボが第10回自治体学会賞「田村明まちづくり賞」を受賞しました

平成28年熊本地震により甚大な被害を受けた益城町に、復興まちづくりの地域拠点として設置された「熊本大学ましきラボ」が、第10回自治体学会賞「田村明まちづくり賞」を受賞しました。同賞は、国内自治体の発展と地方自治に顕著な貢献をした研究および業績に対して、年間2件授与される賞です。平成28年10月の開所以降、毎週末に教員と学生が在室し、住民と行政のかけ橋として、創発的かつ継続的なまちづくり活動を展開したことが評価されました。

最近では、復興のフェーズが具体的なまちづくりに移行しつつあり、区画整理や県道拡幅などの大規模事業に関する提言・提案から計画の監修へと至るハード面に関する支援や、実物大模型を用いたワークショップ開催を通じた住民の意見聴取、まちづくり協議会のサポートなどソフト面の支援も併せて行うなど、活動は年々多様化しています。

10月17日に行われた表彰式には、柿本竜治 くまもと水循環・減災研究教育センター長が登場し、国吉直行 自治体学会賞委員会委員長から表彰状が授与されました。



表彰式に登壇した国吉委員長(左)と柿本センター長(右)

REPORT 教育学部松永研究室が「くまもんポート八代」の装飾を制作し感謝状が授与されました

11月28日に、「くまもんポート八代」にて、おもてなし装飾制作に係る熊本県の感謝状贈呈式が行われ、教育学部美術科の松永拓己 准教授と8名の学生が出席しました。

メンバーは、八代港に整備されたクルーズ拠点である「くまもんポート八代」の一角に、熊本県とのコラボレーションによる壁画を制作しました。壁画は、学生のアイデアでトリックアートになっています。

「くまもんポート八代」は、2020年3月に完成しましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、開園が遅延されていました。10月31日にプレオープンし、利用を段階的に拡大しています。



蒲島熊本県知事(中央左)と松永准教授(中央右)と学生の皆さん

熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

No.52 (令和2年8月1日～令和2年10月31日)

卒業生の皆様、在学生の保護者の皆様、法人・団体等の皆様、本学の退職者及び教職員の皆様から、これまでに約15億217万円(令和2年10月31日現在)のご寄附をいただき、研究・教育に資する事業に取り組みさせていただきました。また、熊本地震復興事業基金へお寄せいただきました寄附金は、熊本大学の復興に向けて、被害学生に対する修学支援や被災しました建物の修繕費、設備・機器の更新・修理費のために、大切に活用させていただきます。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、令和2年8月1日から令和2年10月31日までの間に入金を確認させていただきました個人114名、15法人・団体等の寄附者すべての皆様へ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない寄附者の皆様につきましては、掲載しておりません。

また、万一お名前に記載漏れがある場合は、誠に恐縮ではございますが、基金事務局(電話:096-342-2029)までご連絡ください。

皆様の更なるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. お名前・寄附金額の掲載

(寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※()内の数字は、累計寄附金額(万円)です。

<熊本大学基金>

【150万円】	平田 展章 (150)						
【100万円】	西田 治義 (500)						
【50万円】	株式会社NBM プランニング (50)						
【10万円】	甲斐 広文 (65)	田中 正比古 (20)	月岡 信隆 (24)	連川 貞弘 (25)	長谷 義隆 (70)	松山 裕子 (10)	
【5万円以下】	池田 勇 (6)	一口 修 (5)	井上 裕子 (28)	猪俣 紘一郎 (16)	今任 寿 (3)	岡島 寛 (33)	
	田邊 将之 (2)	土屋 創健 (0.75)	中上 博秋 (12)	長谷川 万由美 (1)	藤好 建史 (4)	本多 邦雄 (20)	
	松木 達郎 (2)	広島大学災害ボランティア団体アイリス (5)					

2. お名前のみ掲載

(五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※[]内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

<熊本大学基金>

青木 拓人 [2]	一ノ口 史規	稲葉 一郎 [2]	井上 孝助	宇佐川 毅 [5]	河島 孝彦 [3]	北原 隆司 [3]	清田 信照 [2]
相良 勝郎 [8]	笹尾 洋一	澤田 敬 [3]	高野 瑞代	田代 昭 [2]	永友 由里子 [2]	波平 康 [3]	西牟田 康博 [4]
平田 修 [3]	福田 俊幸 [5]	福本 哲也 [3]	溝口 貴志	宮原 勝巳	山田 雅義 [2]	山本 政幸 [2]	横手 公博 [3]
吉浦 忠宏 [2]	吉田 和秀 [2]	渡辺 華寿					
アプライド株式会社	医療法人伊東会伊東歯科口腔病院	株式会社双葉金属	熊本大学医学部医学科後援会 [16]				
熊本大学医師会 [3]	堤化学株式会社 [16]	東京エレクトロン九州株式会社 [5]					

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人 62名、5法人・団体等

環境省プロジェクトにより開発したE Vバスの実証試験を横浜市で進めています

大学院先端科学研究部の松田俊郎 シニア准教授を代表者とする産学官プロジェクト(環境省委託事業)により開発されたE V(電気自動車)バスの実証試験を横浜市で進めています。

このプロジェクトは、乗用車E Vの量産技術を使って低価格で高性能なE Vバス技術を実用化し、大学独自の創意工夫により、運転が容易で利用者に快適な新しいE Vバスの性能・価値を社会に提案するものです。さらに、将来のE Vバス大量運行に向けた電力や充電の仕組み作りを行うことで、E Vバスの全国普及を目指します。

平成30年度に熊本市で実証試験を行った「よかエコバス号」の技術をさらに進化させ、利用者数、坂道、渋滞の多さなど、E Vバスの運行に厳しい横浜市営バス路線で令和3年2月まで実証試験を行います。走行データを蓄積して実用性や新技術の評価を行い、E Vバス大量運行のモデルを構築します。



実証試験車

実証試験車の特長

- 1) 低床フロア型大型路線バスに、高エネルギーリチウムイオン電池(160kWh)、大容量減速機、高出力充電(100kW)等の新技術を搭載。排気ガス及び走行中のCO2排出ゼロ。
- 2) 熊本大学独自のモーター回生制御と(株)ブリヂストンとの共同研究による最新の低転がり抵抗タイヤを搭載して走行エネルギーを大きく低減。
- 3) 大容量減速機の採用とモーター回生制御により、運転士の運転操作を簡易化し(変速操作廃止、ブレーキ操作減少)、バス利用者にとって安全で快適な性能を実現(変速による揺れを無くし走行中の振動を減少)。

「くまもとの健康と地域づくりを考える会オンライン研修会」を開催しました

11月28日に、医学部保健学科公衆衛生看護学講座では、「くまもとの健康と地域づくりを考える会オンライン研修会」を開催しました。

本研修会は、看護職が相互につながり合い保健活動の一助を見出すことを目的としており、初開催となった今年度は県内外の行政保健師や教育関係者等33名が参加しました。

新任保健師に必要なコミュニケーションスキルをテーマに、大分県立看護科学大学の木嶋彩乃 助教、コロナ禍で新人研修が中止された中で新任保健師としてスタートした卒業生からの講演の後、同講座の金森弓枝 助教も加わり、討論が行われました。参加者からは新人・先輩双方からの意見が出され、新人と先輩が双方向に能動的に働きかける重要性が導かれました。

今後も本学保健師課程の同窓生をはじめ保健師・看護師・助産師の方々の意見に耳を傾けながら共に学ぶ機会を設け、地域保健活動の発展に尽力してまいります。



オンライン研修会の様子

REPORT 令和2年度熊本大学卒業生表彰式を行いました

11月22日に、令和2年度熊本大学卒業生表彰式を行いました。

この卒業生表彰は、平成24年度からスタートした表彰制度で、熊本大学の発展又は社会からの理解促進につながる顕著な功績があった卒業生を、各学部等同窓会からの推薦に基づき表彰するものです。

第9回となる今回受賞となったのは、武夫原会(文・法学部同窓会)3名、教育学部同窓会1名、理学部同窓会1名、熊杏会(医学部同窓会)1名、薬学部同窓会3名、工業会(工学部同窓会)4名、医学部保健学科同窓会1名の計14名で、それぞれの分野で顕著な功績を挙げられた皆様や、同窓会活動にご尽力いただいた皆様です。

表彰式においては、原田学長が、「卒業生がそれぞれの分野でご活躍された結果、本学の名誉を大いに高めていただいた。また、同窓会活動等においても多大なご尽力をいただいている。その総体として、本学は、社会から、高く評価されていると思っており、皆様のご活躍に敬意を表するとともに、本学へご貢献いただいたことに感謝申し上げます。本学は、今後も皆様の期待に応えるべく、総力を挙げて研究、教育、社会貢献に取り組んでいきたい」と祝辞を述べました。



REPORT 学生支援室FD・SD※講演会を開催しました

※Faculty Development, Staff Developmentの略。教職員の職能開発のこと。

11月17日に、学生支援室ではFD・SD講演会をWeb会議システムによるオンラインで開催しました。

本講演会は、教職員が合理的配慮の理解をさらに深めるとともに、障がいのある学生への支援を円滑に行うためのスキル向上を目的に、本学教職員に加え、今回は学生も参加して行われました。

講演会は65名の参加申込みがあり、学生支援室の井上寛子 特任助教による本学の障がい学生への支援状況の報告に続いて、筑波大学人間系 佐々木銀河准教授による「大学における発達・精神障がいのある学生への合理的配慮等の支援について」のタイトルで、発達障がい学生に可能な配慮や支援の事例紹介、教育の本質を明確にすると配慮の検討がしやすいこと、コロナ禍で支援に変化が生じていることなどを分かりやすくお話いただきました。

参加者からは、就職活動の支援や合理的配慮に関する意見交換会の実施状況など筑波大学の取り組みへの質問が多く寄せられ、今後の本学での障がい学生支援での課題解決に大いに役立つものとなりました。



佐々木准教授によるオンライン講演の様子